

YWVOB会 会報 No.22

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

2002年12月15日発行

～ 22号の目次 ～

・2003年度OB総会.....	1	・現役活動報告.....	11
・第6回OB山行の報告.....	9	・会員便り.....	12
・シニアの集いの報告.....	10	・会員近況(返信ハガキ近況欄より).....	13

■ 2003年度OB総会

■ 開催場所：文京シビックホール

■ 日時：11月10日(日) 11:00～17:00

■ 参加者：OB26名(うち新規承認会員2名)、現役3名

嘉納秀明(1)、望月元雄(1)、吉野大次郎(2)、塚原伸一郎(2)、渡辺享英(3)、井上肇(3)、郡司直樹(4)、斎藤貞夫(4)、谷上俊三(4)、菅谷光雄(6)、松本弘道(7)、安藤貞利(11)、中島一夫(15)、石垣秀敏(20)、西田雅典(20)、白木政隆(21)、鳥井正志(21)、横溝真司(21)、禅知明(29)、笹倉実(30)、藤井謙一郎(33)、小野恵美子(34)、田村顕洋(34)、後藤誠史(39)、笠原正大(41)、佐野哲也(42)、以下現役部員、梶ヶ谷圭祐(43)、志賀圭(44)、塩野貴之(46) 敬称略

■ 議長：禅氏(29)



(撮影：谷上氏)

上段：田村 藤井 中島 石垣 西田 白木 鳥井 後藤 笠原 梶ヶ谷 志賀 松本 安藤 斎藤 佐野 菅谷 塩野 小野 禅 谷上
下段：笹倉 塚原 渡辺 嘉納 吉野 井上 郡司 横溝

(望月氏早退)

総会議事次第

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. 開会 | 8. 監査報告 | — 休憩 — |
| 2. 会長挨拶 | 9. 関西支部報告 | 16. 出席会員自己紹介 |
| 3. 議長・書記指名 | — 昼食休憩 — | 17. シニアOB会活動報告 |
| 4. 定足数確認 | 12. 会則の改正について | 18. 現役活動紹介 |
| 5. 新OB会員承認 | 13. 新役員選任 | 19. 苗名小屋の一年 |
| 6. 2002年度事業報告 | 14. 2003年度事業計画 | 20. 閉会 |
| 7. 2002年度会計報告 | 15. 2003年度予算案 | |

新会員の紹介と承認

■ 今年の新会員

- ・吉村元孝(3)、白木政隆(21)、金丸雄介(42)、古谷未央(42)、佐野哲也(42)、赤井研樹(43)

(白木さんと佐野さんが、総会に出席。)

■ 新会員のコメント

- ・白木:1年2ヶ月でワングルを辞めて以来、21期前後との交流は続けていた。しかし、より深い交流を望み、横溝に依頼、このように新会員となることを希望した。



白木さん(21)



佐野さん(42)

特別準備金に関する経緯報告と協定書調印の承認

■ 特別準備金および特別準備金協定書とは？

(協定書の全文)

横浜国立大学ワングル部 特別準備金協定書

横浜国立大学ワングル部と横浜国立大学ワングル部OB会とは特別準備金の趣旨、帰属、使途、使用条件および運用規程について下記のような協定を結んだ。このことを協定書として双方が一部ずつ保存し、協定の内容を忠実に遵守するものとする。

ワングル部特別準備金協定の趣旨

過去に遭難対策費として積み立てたお金がいくつもの郵便貯金として預けられたまま忘れられていたが、その総額は二百数十万になっていた。最近になり長期間預けたままのため、失効になるとの連絡が入り、OB会事務局のOBが奔走して確保した。この預け入れの期間がバブル期と一致したため利率が高く、約二倍の金額となって戻ってきた。現在約500万円程の現金を保有している。(正確な金額は協定締結時の残高証明書に記入されている額とする。)この資産の管理と運用について、以下の資金の帰属、使途、使用条件および運用規程について合意する。

1. 資金の帰属

この資金を積み立てたのは20期前後の当時の現役であった。その時の意識は遭難に多大の出費を必要とするため、これに備えるべく積み立てワングル部に帰属する資金とするものであった。したがって、この時点の帰属は明瞭にワングル部のものである。しかし、その趣旨が後続の現役に伝えられず、資金の存在は忘れられ、所有権の失効が生じそうな事態に立ち至った。それを特別の計らいで復権したのはOBであった。この結果、この資金の所有権については、百パーセント現役にあるとすることは出来ない。すなわち、この資金の運用についてOBと現役共同で管理するのが妥当であるとする。

2. 使途

この資金の積み立て趣旨は遭難対策費であった。しかし、現状では積み立て当時と状況が変化している。まず第一は、保険の普及であり、運動サークルではスポーツ保険などに加入して万一に備えることが常識になっていて、現在のワングル部も保険に加入している。第2にこの資金の存在が忘れられた結果、現役は新たな遭難対策費を積み立てている。第3に部員数の減少のため、当時よりは遭難が生ずる可能性が減少している。したがって、この資金が遭難対策費としてのみ使用される必然性が下がってきている。このために、ワングル部の活動に必要な費用に流用することが出来るようにした方が有効な運用が期待できる。

3. 使用条件

この資金はワンダーフォーゲル部のために積み立てられたものであるから、ワンダーフォーゲル部のためにのみ使用されるべきものである。しかし、どのような目的に運用されるべきかは、現役のみならず、OBの判断もいれて決定されるべきである。

4. ワンダーフォーゲル部特別準備金運用規程

- 過去に集積した遭難対策費とそれに対する利子合計をワンダーフォーゲル部の特別財産とし、特別準備金と呼ぶ。
- 特別準備金の使途
 - ワンダーフォーゲル部公式活動における事故の処理費の補助
 - ワンダーフォーゲル部の活動上必要な臨時的支出の補填
- 前項2の二の特別準備金の支出実行に当たっては、部およびOB会の一致した承認のもとで行う。
- 一回の支出の最高限度額は特別準備金の約1/2とする。
- 特別準備金の保管はOB会会計が行う。OB総会時において残額証明などにより保管の状況を確認する。また、現役からの要求がある場合には保管状況を提示するものとする。
- ワンダーフォーゲル部が解散する場合においては、解散時の現役部員およびOB会員に特別準備金が均等に還付されるものとする。

5. 協定の期間

本協定の有効期間は1年とする。ただし、改訂の表明がない限り、1年づつ継続延長されるものとする。

2002年11月10日

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 主将 志賀 圭
横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB会 会長 嘉納秀明

■ 特別準備金に関する主な質疑応答

Q:一回の最高支出限度額が残高の1/2とした理由は?

A:遭難が複数回起こった場合を考え、一度で全て使い切り次回回す金額がゼロとなる事態を避けるためであり、また、特別準備金はあくまで補填のために用いられるものである。

Q:事故の場合には部とOB会による承認が不要ということになるのか。

A:緊急の場合の利用条件については、その様に規定している

関西支部報告

- ・現在支部員は22名。支部員の定義は、近畿二府四県+三重県在住の部員である。ただし、行事関係では定義にこだわらず、幅広く案内を出している。
- ・しばらくの間は、通信費等を繰越金で賄うことができるような会計状態である。

Q:「ワンダーフォーゲル部の活動上必要な臨時的支出の補填」の具体的な使用条件のイメージは。

A:遭難対策以外にも使える、ということ想定して設定した。

「活動上重要である」と判断するのはあくまで現役であり、利用の際にはOB会に相談する、ということ想定している。

Q:「山小屋を想定している」ということではない、と理解して良いのか。

A:可能性としては将来、山小屋に適用するという事は十分に考えられるが、現在の問題となっている屋根の修繕にはこの準備金を使用するべきではないというのが現役側の見解である。

Q:「公式活動における事故」とあるが、公式活動とはどのような枠組みで決定されているのか。

A:現役としては、計画書の提出、審査会の通過があれば、公式活動として承認している。

■ 承認事項

- ・質疑応答の結果を踏まえ、原案の文言を一部修正のうえ、後日、現役とOB会の間で取り交わすことを承認した。

報告:嘉納氏(1)

※協定書への調印について

- ・過日、現役主将志賀氏と、OB会長嘉納氏が協定書に調印し、同協定が発効した。

- ・前回山行は、残念ながら雨により中止となった。
- ・2004年は、関西支部設立40周年となる。これに合わせた活動も考えている。

報告:関西支部長 渡辺氏(3)

会則の改正について

■ 改正の理由

- ・OB会の再建から3年が経過し、会の運営にも一定の安定とルールが出てきた現在、会報発行、OB山行の実施等、会活動が活発となってきたことや幹事会等の運営実態と、会則の規定があわなくなっていることから、運営組織を再編するとともに、会則の内容を会運営の実態にあわせたものとするために、会則の改正を提案。

■ 主な改正点

- ・会員の名称を「正会員」から「会員」に変更する。
- ・「常任スタッフ」という概念を廃止する。
- ・「拡大幹事会」を「役員会」と変更し、現行の常任幹事会と括

大幹事会の機能を持たせる。

- ・「役員会」の定足数を会長、幹事長、副幹事長、会計、各委員長、監査役に限定する。
- ・「理事」、「常任幹事」を廃止する。
- ・「支援委員」を廃止する。
- ・「編集委員会」及び「OB山行委員会」を新設する。
- ・「担当幹事委員」は「委員」と変更する。
- ・役員任期を総会日から3年後の総会日までに変更する。
- ・各委員会の決定事項に係る会員周知の規定を削除する。
 - ・OB山行における自己責任の原則を会則に明記する。
- ・その他条文の組替え、文言の修正。

報告:吉野氏(2)

新役員を選任

・以下の役員が承認された。

会長	1期	嘉納 秀明	OB 小屋委員会	34期	村山 浩樹
関西支部長	3期	渡辺 亨英	委員長	39期	後藤 誠史
幹事長	33期	藤井謙一郎	副委員長	31期	伊藤 明広 *
副幹事長	34期	田村 顕洋	副委員長	41期	石川 真
会計幹事	2期	吉野大次郎 *	委員	4期	郡司 直樹
顧問	6期	菅谷 光雄		5期	諸角 壮弐
	8期	池原 盛彦		6期	菅谷光雄(兼)
総務委員会				8期	池原盛彦(兼)
委員長	41期	笠原 正大		14期	鈴木 道夫
委員	21期	横溝 真司		14期	小口 雄平
	29期	禅 知明		30期	笹倉 実
	34期	影井 康弘		30期	安本 健一
	36期	渡邊 隆史		34期	田中 義人 *
					編集委員会(新設)
					委員長 34期 田村顕洋(兼)
					副委員長 7期 松本 弘道
					副委員長 39期 山崎 美穂
					山行委員会(新設)
					委員長 34期 小野恵美子
					監査役年 3期 井上 肇*

(*印の役員は、任期中のため、今回の改選対象外)

2002年度 活動報告

OB 山行の実施

- 第4回：12月8(土)、丹沢(二股→鍋割山→塔の岳→二股) 参加者18名、曇。塔の岳の樹氷に感嘆の声。現役部員と途中すれ違う。
- 第5回：8月24(土)、那須(ロープウェー→茶臼岳→峰の茶屋)、シニアと合同で実施し、参加者37名。貸切バスでアプローチ。

OB 会報等の発行

- 20号：6月発行 総会、第4回OB 山行報告、その他
- 21号：9月発行 小屋修繕状況、第5回OB 山行報告、会員からの寄稿、各期報告(22期)

連絡体系

- メーリングリスト：一般会員用、役員用の2本だて体制を整理し、2002年10月に一般会員用に統合。
- 名簿情報の整備：Accessによる管理。希望者に対して2002年12月に発送(郵送およびメールによる)



樹氷(第4回OB 山行)

幹事会の開催

- 幹事会(於都内会議室、ワンゲル部室)を開催し、総会準備、小屋諸問題、山行準備などを検討した。その他会報発送作業などで2回集会を設けた。

遭対費問題

- 経緯不明の遭難対策費(特別準備金)について、運用管理の覚書を現役部員と締結すべく協定書原案を策定。

会則改正の検討

- 会則、特に体制面の内容を見直し、今回の総会で提案する。呼称や役割の見直し。委員会運用体制の見直し。

報告：藤井氏(33)



幹事会の風景(部室)

2002年度 一般会計決算報告

2002年度一般会計決算報告 (2001.10.1~2002.9.30)

前期繰越		485,390					
収入				支出			
項目	02年度予算	02年度実績	差額	項目	02年度予算	02年度実績	差額
年会費	170,000	194,000	24,000	会報作成・発行費(2回)	300,000	229,826	-70,174
前納会費	201,667	205,000	3,333	小屋会計振替	450,000	570,000	120,000
一般寄付金	150,000	169,500	19,500	小屋会計振替(小屋会計直接分)		156,860	156,860
小屋寄付金	450,000	570,000	120,000	総会費用	136,000	145,517	9,517
小屋寄付金(小屋会計直接分)		156,860	156,860	山行費用	24,000	4,280	-19,720
総会参加費	150,000	160,000	10,000	幹事会・委員会会場費	40,000	8,245	-31,755
山行参加費	22,500	12,800	-9,700	名簿郵送費	9,000	18,935	9,935
名簿郵送関連	15,000	11,000	-4,000	関西支部補助	6,000	6,600	600
その他収入	10,000	229	-9,771	その他支出(予備費)	30,000	4,325	-25,675
計	1,169,167	1,479,389	310,222	計	995,000	1,144,588	149,588
(前納会費繰延分)	790,000/6	=	131,667	当期収支	174,167	334,801	160,634
(前納会費当年度分)	440,000/6	=	73,333	次期繰越	659,557	820,191	160,634
(前納会費計)			205,000	(前納会費繰延分)		528,333	528,333
				(前納会費・当年度分繰延)		446,667	446,667
				(前納会費繰延・計)		975,000	975,000

*会費等納入状況(正会員475名)

	<納入者数>	<金額>	<納入率>
2002年度年会費納入者	91名	182,000	19.2%
2001年度以前年会費納入者	3名	12,000	
前納会費(2002~2007)納入者	44名	440,000	9.3%
前納会費(2003以降分)納入者	8名	80,000	1.7%
(2001年前納会費納入者)	79名	790,000	16.8%
一般寄付・小屋寄付寄進者	109名	896,360	22.9%

帳簿残

次期繰越	820,191
前納会費繰延	975,000
前受金	686,000
計	2,481,191
現金・預金残	
現金	0
振替口座	1,136,757
総合通帳	1,344,434
計	2,481,191

報告：吉野氏(2)

2002年度 OB小屋委員会 活動報告

- 雪下ろしを今冬、計4回実施。述べ参加者31名。
- 小屋MLにおいて、小屋に関するアンケートを実施。現小屋の存続要望が多いこと等の結果が得られた。
- 再生プロジェクト(D I Y工事)を随時実施。倉庫窓改造(2001年10月)、周囲排水改良(随時)、トイレリフォーム(5月)、水道改良・安定給水(9月)

- 快適化整備に伴う利用者負担(電気・水道)、受益者負担割合の見直しのため、小屋利用料金を改定した。

参考：OB一泊利用料金

旧：夏150円、冬250円 → 新：通年500円

報告：笹倉氏(30)

2002年度 OB小屋委員会特別会計決算報告

2002年度OB小屋委員会特別会計決算報告

(2001.10.1~2002.9.30)

前期繰越金(2001.10.1) 547,137 ①

収入	
小屋寄付金(OB会計経由)	570,000
小屋寄付金(OB小屋会計直接)	156,860
預金口座利子	83
計	726,943 ②

当期収支(②-③) 244,224

次期繰越金(2002.9.30)(①+②-③) 791,361 ④

帳簿残(2002.9.30)	
次期繰越金	791,361
未払金	0
計	791,361

支出	
除雪作業補助	119,574
R2002	29,433
小屋整備修繕	332,142
小屋地代	0
振込手数料	1,570
計	482,719 ③

現金・預金残高(2002.9.30)	
現金	597
普通口座	656,545
仮払金	134,219
計	791,361

2003年度 事業計画

会報発行

- 22号(12月発行目標)：総会&第6回OB山行報告、会員近況等
- 23号(3月発行目標)：冬小屋報告、第7回OB山行案内、会員便り等
- 24号(8月発行目標)：第7回OB山行報告、R2003案内、総会案内、会員便り等
- 会員の投稿を積極的に募集するほか、読みやすさに気を配りつつ、内容を充実させる。

OB山行の企画、開催

- 2003年度は3回(12月と5月、8月)実施予定。
- OB山行の派生パターンとして、
 - ・会員相互の山行の企画の奨励
 - ・会員の私的な山行の情報収集
 など、新設委員会としての機能を活かす仕組み作りを行う。

苗名小屋活動

- 除雪、整備行事を実施するとともに、利用者増加に向けた広報活動を充実させる。

メールリスト宣伝

- 一般ML(ywvob@egroups.co.jp)に統合を行ったことを機に、

2003年度 一般会計予算

2003年度一般会計予算案 (2002.10.1~2003.9.30)

	(02年度実績)	(03年度予算)	
前期繰越	485,390	820,191	
収入			
項目	02年度実績	03年度予算	差額
年会費	194,000	140,000	-54,000
前納会費	205,000	255,000	50,000
一般寄付金	169,500	250,000	80,500
小屋寄付金	570,000	400,000	-170,000
小屋寄付金(小屋会計直接分)	156,860		-156,860
総会参加費	160,000	50,000	-110,000
山行参加費	12,800	15,000	2,200
名簿郵送関連	11,000	15,000	4,000
その他収入	229	10,000	9,771
計	1,479,389	1,135,000	-344,389

(前納会費繰延分)	1,260,000/6	=	210,000)
(前納会費当年度分)	270,000/6	=	45,000)
(前納会費計)			255,000)

MLの登録数の増加を図る(2002.11.6現在63名)。

潜在会員の顕在化

- 遠隔地のOBのOB会活動への参加(原稿執筆、MLへの登録)を促す。特に20期代会員の参加率を高める。
- 期別幹事との連携による名簿情報の管理体制強化

50周年に向けた活動

- YWVは2007年に50周年を迎える。それを記念した行事を検討する準備グループの立ち上げを検討する。

報告：藤井氏(33)



総会の風景

支出

項目	02年度実績	03年度予算	差額
会報作成・発行費(3回)	229,826	300,000	70,174
小屋会計振替	570,000	500,000	-70,000
小屋会計振替(小屋会計直接分)	156,860		-156,860
総会費用	145,517	80,000	-65,517
山行費用	4,280	24,000	19,720
幹事会・委員会会場費	8,245	28,000	19,755
名簿郵送費	18,935	15,000	-3,935
関西支部補助	6,600	6,000	-600
その他支出(予備費)	4,325	20,000	15,675
計	1,144,588	973,000	-171,588

当期収支 334,801 162,000 -172,801

次期繰越	820,191	982,191	162,000
------	---------	---------	---------

(前納会費繰延分)	585,000	765,000)
(前納会費・当年度分繰延)		225,000)
(前納会費繰延・計)		990,000)

次期繰越	982,191
前納会費繰延	990,000
計	1,972,191

報告：吉野氏(2)

2003年度 OB小屋委員会事業計画

■ 雪下ろしを今冬、計4回実施予定。

■ R2003 を実施するほか、各季節に応じた小屋利用を会員に提案し、利用率を高める。

■ 屋根の張替え

- ・ 老朽化が進む屋根を、業者に発注して張りかえる。
- ・ 特別寄付金の募集を含む事業の実施については、役員会およびOB会小屋委員会に一任する。

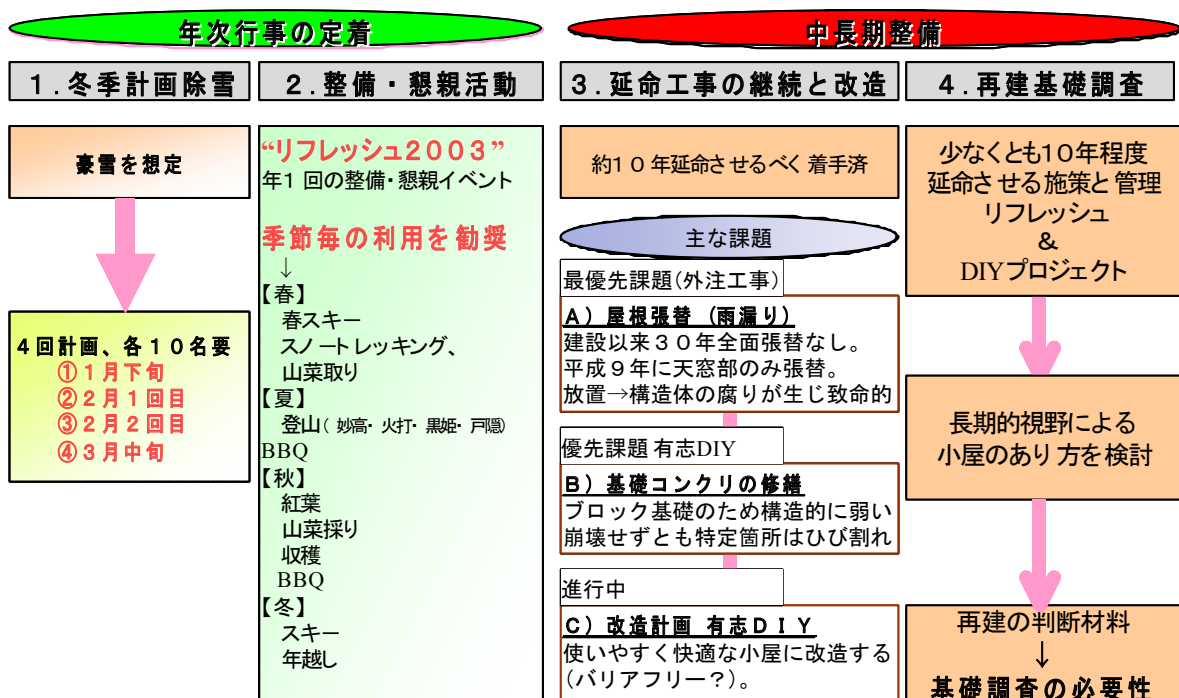
■ 屋根張替え等に関する主な議論

- ・ 寄付については、趣意と目的金額について明らかにする必要がある。
- ・ 既に調査は進んでおり、金銭面での準備が出来れば工事が開始できる段階にある。今日決議してしまえば、詰めてきた行程で屋根修繕に移るだろう。
- ・ 寄付実行の可否ではなく、屋根張りを含めた小屋委員会の計画の実施の可否についてのものとするべきである。
- ・ 小屋はあくまで現役のものである。現役側の意識はどのようになっているのか。
- ・ 小屋は建設当時から、現役の足かせになるのではないかとこの危惧があった。今後、現役側の意識は変わってくるものと思われるし、部員数の少なさを考えると、小屋は現役のものという理論は酷ではないか。
- ・ 現役側としては、小屋は本来現役のもの、とは言いや聞かされてきたことでもあるし、この点には同意する。しかし、こ

こ数年でも、代によっては小屋を嫌う傾向もある。今は小屋に愛着を持ってもらおうと出来る限り小屋を活用した計画を立案するようにしている。屋根の改修については、我々では問題点の把握や対処方法の計画などが困難であるので、OB 小屋委員会の方向性に合わせた活動をとっている。

- ・ ML 等では一部で非常に濃い議論も交わされてはいるが、マジョリティの議論とはならず、一般化されるには至っていない。
- ・ DIY や通常の活動に関する予算は既に計画されている。今回の動議は、通常の予算ではなく特別な枠組みを設ける必要がある、ということが問題となっている。
- ・ マジョリティ云々という話があるが、現在、山小屋に関しては大きな関心を多くの者が持っていると言っているだろう。それを前提として、議論を進めるべきではないか。
- ・ 山小屋に関わる会員が、安心して活動に取り組みめないのが現状である。このような、活動を後押しする決議は必要なのではないか。
- ・ 単純に「屋根張替に関する寄付」の可否を決める議決とするべき。
- ・ ただ単純に屋根張替だけでなく、延命計画そのものに対する承認を得られた方が、小屋委員会としては望ましい。
- ・ 今日は土台・基礎修繕等に関する議案を省き、あくまで屋根張替に絞る。

2003 年度 OB小屋委員会 事業計画



■ 決議の結果

- ・OB 山小屋委員会・年間行事計画(通常予算による)は、過半数以上(満場一致)により可決。
- ・OB 山小屋委員会・中長期整備計画は、過半数以上(会員議

席26名中、賛成25名・反対1名)で可決。

- ・OB 山小屋委員会・屋根張替等、特別寄付を含む計画の小屋委員会・役員会への委譲については、過半数以上(会員議席26名中、賛成25名・反対1名)で可決。

2003年度 OB 小屋委員会特別会計予算

2003年度OB小屋委員会特別会計予算案 (2002.10.1~2003.9.30)

前期繰越金(2002.10.1)	791,361	①
収入		
OB会計より振替	500,000	
	500,000	②
当期収支(②-③)	0	
次期繰越金(2003.9.30)(①+②-③)	791,361	④

支出	
除雪作業補助 (@30,000円×4回:1・3月各1回、2月2回)	120,000
R2003 小屋整備修繕	100,000
小屋地代	260,000
雑経費	10,000
計	500,000

参加会員の近況

嘉納(1) : OB会やシニアを通じて、まだまだ山には登りたい気持ちがある。

望月(1) : OB 総会第2部はまかに予定があり、欠席いたしました。今年6月に太平洋セメントの顧問を退任し、今は孫の保育園の送り迎えを専らにしております。シニアOB月例山行は楽しみで、都合のつく限り参加しています。写真教室には若い女性に混じり撮影会で勉強中。そのうちに傑作を撮りたいとおもっています。

吉野(2) : OB会の会計幹事とシニアOB会の山行幹事をしている。

塚原(2) : シニア山行の委員長をしている。3年で36回山に行った。それまでは年に1回だった。

渡辺(3) : 関西支部の活性化のために頑張ってます。

井上(3) : お三方と違い、山には全然行ってません。

郡司(4) : シニア月例や会社の月例で月2回は登ってます。昨日事故があり、その関係で今日はこんな(登山の)格好です。

斎藤(4) : 数少ない山小屋反対委員です。DIY でやってるのなら同好会、ワングルの行事ではないと思う。こういう考えの人もいることを忘れないで下さい。

谷上(4) : シニアの写真担当をやらせてもらってる。心臓の病気で登山はセーブしているが先月6ヶ月ぶりに少し解禁。伊勢原住まいなので丹沢が近いので丹沢を攻めたい。

菅谷(6) : 2007年のワングル50周年に色々やろうとしてい

る。5年後に期待してほしい。

松本(7) : 小屋が綺麗になったのは感慨深い。最後の登山になるだろうと思い南ア白根三山に登ったが、まだまだ行けるとかえて自信をつけた。

安藤(11) : 冬にテレマークをやろうと考えている。

中島(15) : 50歳前後なので、会社ではリストラの危機。2年前から閑職になったので山に行けるかと思ったが、再度忙しくなった。出来るだけ参加したい。

石垣(20) : 総会は初めてだと思う。最近はおトキャンプばかりしているが、仕事が忙しく、おトキャンプも今年は2回しかできなかった。

西田(20) : 海外に行ったりしてたので、総会に出席したのは初めてだと思う。仕事に加え、3人の子供がおり何かと忙しいが、これからはなるべく参加したい。

白木(21) : 20期台が少ないとのこと。色々な面の今後協力していきたい。

鳥井(21) : 総会は初めて出た。海の仕事なので魚ばかり縁があるが、今後は山にも関わって行きたい。

横溝(21) : 今日から総務委員となった。仕事は期別幹事の掘り起こし。6年前に病に倒れ山にはいけなくなった。期の間の接着剤となるよう努力する。

禅(29) : 母校(横国)で助手をやってる関係で米屋教授とつながりがある。米屋教授には現役の部長をお願いしているがお忙し

いよう。至らぬ幹事長ながら皆さんのおかげでやってこれた。ありがとうございました。

笹倉(30)：同期で山に行く者も減ったようだ。OB会に関しては停滞している同期が多いが復活してくれるだろう。役員も次世代に譲って行きたい。

藤井(33)：北アを黒部ダムから遡行して登りつめた際に少し足を痛め、しばらく登山を控えてる。同期2人目が亡くなってしまい、来年にでも一度全員集合しようという話をしている。

小野(34)：大学時代ワングルのおかげで勉強を怠ってしまったので、現在仕事をやめて専門学校で勉強中。来年4月から社会復帰します。12月のOB山行ぜひ来てください。

田村(34)：34期はちょこちょこOB会活動には活発に関わっている。6月にロンドンから戻ってきた。この秋は、妙義、白神、金時に行ったが白神は雪で敗退。独身なので山に割ける時間は多い。

後藤(39)：39期は最後までいたのは5人、実際に活動してい

たのは3人。小屋委員長になったものの、笹倉さんと比較されると頼りないかもしれないが、よろしく。

笠原(41)：41期は39期よりもひどく、部に残ったのは3人という状態。2年も執行部をやり、血の出る思いをした。今後総務委員長として皆さんにお願いすることも多くなるがよろしく。

佐野(42)：今年の夏は研究でどこにも登れず、先日宮之浦岳に行った。次は九州の山にトライする。

梶ヶ谷(43)：43期は活動は活発ではなかったが、今では仲良し。

志賀(44)：今年の目標は新入部員の獲得と、新人を山に連れて行くことであった。2つとも成功して嬉しい。後藤新小屋委員長をサポートしていきたい。

塩野(46)：4月から今日まで27日山に入ったが、いつの間にか100名山のうち11山に登っていたことに気づいた。

■ 第6回OB山行の報告

第6回OB山行報告

OB山行委員長 小野恵美子(34期)

〔日時〕 2002年12月7日(土)

〔行先〕 明神ヶ岳

〔参加者〕 吉野[2]、腰塚[3]、松本[7]、松本[8]、日渡[9]、安藤[11]、小口[14]、狩野[14]、小泉[15]、小浜[17]、白須[17]、渡辺[17]、田村[34]、小野[34](計14名・敬称略・[]内数字は期)

朝から冷たい雨がぱらつく中、参加者が新松田駅に集まりました。第6回OB山行は箱根の外輪山、明神ヶ岳に行っていました。雨でも皆さん登る気満々(?)、予約したタクシーに乗り込みます。最乗寺の立派な境内でウェアや傘など雨対策の姿に早変わり。9時50分、天狗の高下駄の横を通過して登山道に取り付きました。歩くと温まりますが、止まると途端に体が冷えるので、レストもそこそこにピークを目指します。雨は弱まったりまた強くなったり、展望もありませんでしたが、杉林の道や開けたススキの道など落ち着いた良いコースです。12時20分ピークに到着。それぞれ心に大きな富士山を思い描いて、

集合写真を撮影。ピークは冷たい風がもろに吹きつけて凍りつくような寒さでした。慌てて少し下ったところで昼食にしました。それでも寒さで長居できず、30分後にはその場を後にします。少し歩くと寒さもやわらぎ、宮城野分岐のレストでは寒さで強張った顔にまた笑顔が戻りました。ピークでは出せなかったEPIガスコンロとジョークも飛び出して、最後のレストを楽しみました。恐れていた下りも落ち葉が敷き詰められた歩きやすい道で、午後2時30分には下山地宮城野温泉に到着。揃って温泉会館に向いました。冷えた体に温泉のお湯は優しく、心も体も温まって帰路に着きました。適度なアップダウンとコースタイム、歩きやすいしっとりとした山道で、ワンデーハイクとしてはとても良いコースだと思います。今回は終日雨でしたが、皆さんと賑やかに会話を楽しみながら歩くことができました。晴れも良し、雨もまた良し、です。それでも、”360度の絶景を楽しみ、いつかまた来よう” 皆さんそう思ったのではないのでしょうか。たいへんお疲れ様でした。



明神ヶ岳頂上で集合写真



稜線から明星ヶ岳方向を望む

■ シニアの集いの報告

第14回「シニアOBの集い」報告

7期 服部 七郎

第14回シニアOBの集いが、11月23・24日に「いこいの村八ヶ岳」で開催された。

第9回「片瀬」の実質参加者63名の記録更新かと期待されたが、惜しくも記録更新ならず、タイ記録となる63名のシニアOB(1～8期)が甲斐国に集合した。

参加者：1期(3)、2期(9)、3期(8名)、4期(7)、5期(9)、6期(12)、7期(10)、8期(4)、他(1)

※23日(土)晴れ： 3コースのPW

- ・1A「編笠山」(L：腰塚3).....16名
- ・1B「美の森山・天女山」(L：小林秀7).....19名
- ・1C「清里ピクニック」(L：小林桂7).....7名
- ・1D「直行」.....21名

東京方面では、折から接近中の台風の影響か、終日雨まじりの寒空であったが、不思議なことに笹子トンネルを抜けると青空に太陽が燦々。みな事前の案内に従って寒さ対策はばっちりであったが、むしろ暑さ対策が必要なほどの上天気。どのコースも雪を抱いた八ヶ岳・南アルプス連峰の抜群の眺望を楽しんだ。しかし、今年は秋が短く、既に紅葉もほとんど終り、落ち葉を踏みしめるワンダリングとなった。一方、1Cコースなどは、バスを降りてから登りたったの5分でお弁当タイム。それを横目で見ながら1Bがワンダリングを始めるって、一体どういう会なんや？編笠組は、さすが月例43回連続参加のスーパーマン腰塚L(3)の下にシニアOBの精鋭が揃い、ばっちりとしごかれたらしい。ともかく、各コースとも天気にも恵まれ、上機嫌で夕刻全員無事に宿舎に到着。



天女隊の集合写真

※23日(土)：「集い」(@いこいの村八ヶ岳)

18時、嘉納会長(1)の挨拶で開宴。乾杯の発声は昨年について吉田輝氏(1)。当人は嫌がっていたが、何しろ第1回から

連続14回参加者中の最年長なので、記録保持の限りお役ご免とはなりそうもない。ちなみに連続14回皆勤者は、他に吉野(2)、郡司(4)、谷上(4)の諸氏。(ああ～、やっぱり・・・)。乾杯が終わると早速会食・歓談に。今年は初めての試みで立食・ビュッフェ・スタイルにした。食べ物と飲み物を片手に(飲み物だけの人もいたぜい!)あちこちに移動して歓談できるので、固定席式よりも和やかな雰囲気。

恒例に従って、通算10回参加者の表彰。今年は、2期の岩上、多田、6期の秋山、蓮尾、岡田美、桜井の諸兄姉6名に嘉納会長から表彰状と記念品が授与され、受賞者を代表して岡田美奈子さんが挨拶。続いて、吉野幹事(2)からの「11月10日・OB総会の報告」と、週末に小屋のDIYに頑張ってくれている池原幹事(8)からの「苗小屋状況報告」と続く。その後は、各期毎の紹介と記念撮影。今年初参加の吉村氏(3)と、遠路より参加の三宅氏(4、大阪)、向井氏(4、名古屋市)、それとシニア月例山行の常連で集い初参加の狩野さん(14)が挨拶。

このあと、隣の二次会の会場に全員移動。塚原月例委員長(2)と谷上委員(4)による「2002年シニアOB月例山行」の報告。これも初めての試みのスライド上映による報告。1月の「源氏山から始まって、「奥多摩・浅間尾根」、「パノラマ台」、「吾妻山」、「甘利山・千頭星山」、「日光白根山」、「谷川岳」、「那須・茶臼岳」の美しいスライド写真に塚原委員長の名調子でうっとり、っと思いきや、スライドがあっちに飛んだり、こっちに戻ったり。4期のワル〇〇3人が、前夜から明野村の宮崎氏(2)の山荘に泊り込んで編集したものだが、どうやら酒を飲みすぎたらしいぜい。初めてなので、まっあ、いっか!4期のみなさん、スライドの編集から機器類の準備までご苦労様でした。来年も宜しくお頼の申します。宴もたけなわながら、明日の行動予定もあるので、21時「みはるかす」を合唱し、エールを交換、記念写真を撮って来年の再会を約して解散。期ごとに割り振られた各部屋へ。深夜まで旧交を暖める笑い声が聞こえていた。



フィナーレの光景

※24日(日)晴れのち曇り： 4コースのPW

- ・2A「瑞牆山」(L:吉野2).....17名
- ・2B「入笠山」(L:宮崎2).....16名
- ・2C「石空川溪谷」(L:斎藤貞4).....9名
- ・2D「昇仙峡CC」(L:小林秀7).....6名
- ・2E「直帰」.....18名

直帰組が18名で、「宴会の翌日も歩きたい」というメンバーが増えてきたのは、健康な証拠か、はたまた若返りの証拠か(還暦の子供帰り)? 中には、時田氏(5)・松本夫妻(7)のように、前夜泊まれなかったが山だけでもと、夜の明けないまに家を出て、「瑞牆山」隊に現地で合流する強兵も。今年は秋があつという間に行き過ぎ、冬の到来が早い。ゆったりコースのはずの「入笠山」は着雪が凍結している箇所があったり、紅葉の溪谷ハイクと洒落る予定が、ただの落ち葉踏みとなり、「木々の葉が落葉し、その分見晴らしが良かったワイ」とうそぶく御仁あり。瑞牆隊は、あのごつごつした恐ろしげな岩山の百名山を4時間掛けて全員征服。昨日とうって変って、いずれのコースもガスのため眺望はなかったようだが、下山後それぞれ立ち寄り湯に浸かって疲れを癒した。一方、今年初めてゴルフのコースを設定した。暖かい日でセーター無しでのプレーを楽しんだ。スコアは聞こえてこないが、来年以降も登りたくない人のため、チョコレートが欲しい人のためにゴルフ・コースは継続企画か? かくして、今年もシニアOBの集いは楽しく、またそれぞれ

に新しい思い出を作って無事終了した。翌月曜日は甲斐国も雨模様で、現地住人からの情報では、PWで登った編笠山、入笠山さえも真っ白な雪化粧になったそうです。今秋最後のチャンスとも思われる天候に恵まれましたが、今年は9月・10月と連続2回も雨で月例が中止になった埋め合わせをしてくれたようです。併せて各幹事・委員のみなさん、ご苦労様でした。最後に、また来年のシニアの集いで再会を期して、駄歌を二つ。

錦繡の 色あてやかなるや 里山に
 友の集いて 酒をばくらわん
 野に出でよ わが朋輩(ハラカ)よ 桜花
 あといくたびぞ 逢い見(マミ)えるらん



第14回 YWVシニアOBの集い
 平成14年11月23日～24日 ハヶ岳高原「いこいの村ハヶ岳」

■ 現役活動報告

44期執行部が発足してから早くも1年が経とうとしています。今年は、めでたく女性1名を含む計5名の46期を迎えることが出来ました。その喜びもあって、活動はとても活発でした。特に夏合宿で南アルプスを縦走したことは思い出に残っています。

12月14日に丹沢の水無寮で行われる追い出しコンパで、我々

44期は執行部を退き46期に後を譲ることになります。最近、OBの方から「現役は頼りない」というような言葉を聞く機会が多いですが、決して、そんなことはありません。今の現役は例年になく強力な人材がそろっています。最後に今年、1年間お世話になった方々ありがとうございました。46期も同様によりしく願います。



両神山頂にて (左より塩野(46) 肥塚(46) 佐久間(46))



聖岳にて
 (左より野島(44) 杉浦(44) 塩野(46) 志賀(44) Andy(46) 佐久間(46))

■ 会員便り

地方で花開くワンダーフォーゲル精神!

4期幹事 斎藤 貞夫

YWVOB 4期 在仙台の永田多恵子さんが、最近地元タウン情報誌に、永年四季折々に親しんできた第2のふるさとの山に寄せる思いを記した短文を投稿されました。

我等ワンダーフォーゲルOBとして、あらまほしき姿でもあり、懐かしき写真とともに引用させていただきます。

私の泉ヶ岳

永田 多恵子(4期)

仙台に住んで36年になる。これ迄何度、泉ヶ岳に通ったか、数え切れない。

子供達が幼い頃、[子供の日]はいつも家族で泉ヶ岳だった。柏餅を持って。ある年は来仙した両親を交えて、水芭蕉を愛で、兎平に遊んだ。古いアルバムが私に微笑む。

標高1172m、約2時間の登り。新緑、山菜、草花、きのこ、紅葉と、来る度に発見と感動がある。冬、藪が雪に覆われると、かんじきをはいて、袖泉コースを行く。私は兎になって、白い山肌に新しい道をつける。見下ろす谷間にかもしかの親子・・・・ 一幅の墨絵の世界。

思い立って今日は一人で頂にやって来た。360度の展望。汗ばんだ身体を風に任せ、胸のわだかまりを、ふうっと船形山の方に放してやる。歩き、見、味わえる喜びと感謝に満たされる至福のひと時。

還暦を過ぎた今、いつの日にか私の灰を撒いて貰い、この山に歳となって萌え出たいなどと、ふと思うこの頃である。

(付記)

遠方のため、OB会行事になかなか参加出来ず残念です。夫が無事に退職して、時間がとれるようになったら交えて頂きたいと思います。皆様のご健康と会の益々のご発展をお祈りしております。

卒業後、山歩きは家族で年数回細々と続けてはいました。

子育てが一段落した約15年前、女性の仲間と出合って“私の”山歩きを再開。中学校のハイキング部に始まった山への思いが日常的に叶えられるようになり、空の巢の淋しさも更年期の不安定さも乗り越えさせてくれたようです。市民センターの登山教室に参加してカンジキハイクやわらじ作りから始める沢歩きと巾も広がりました。

現在、週末は単身赴任の夫との時間を大切にしたいので、ウイークデイに気心の知れた女性グループで宮城や近県に日帰りで行き、年に4~50回静かな山行を楽しんでおります。夫とは還暦を記念して昨年、今年と8月にフェリーで北海道に渡り、一週間大雪、知床の山を歩きました。家の食堂の壁にガイドマップを貼り付け、来年はどこに・・・と励みしながら暮しています。

泉ヶ岳は家から登山口まで車で30分、自然豊かでバラエティーに富んだ数コースがあります。皆様ご来仙の節はご案内致します。

(’02年10月記)



’78年春、泉ヶ岳にて。バックは船形連峰

復刻版・雪の年賀状

3期 井上 肇

雪は天からの手紙といひます

それは

ある時はひそやかに

ある時は非情さをもって

またある時は

ほほえましくやってきます

秋のある連休のことでした

茶色く光る稜線から

色織りなす樹林帯へと降りてきた時

ひとりの子が

黄色いハート形の葉を拾いました

「私のハートは何色かしら」

「ピンクじゃないの」

「灰色かもね」

日暮れて時雨がきました

それが雪にかわって

その子はテントの中で

私のハートはブルーだブルーだと泣きました

そして静かに雪が降る正月

その子のもとに

一通の年賀状が舞い込みました

「今年はおあなたのハートが

紅くなりますように」

【解説】

秋のPWでの出来事を基にしたものです。

泣いた子も、年賀状をくれた子も、シニアOB会の月例で活躍しています。

■ 会員近況(返信ハガキ近況欄より)

藤岡暉生(1期) : 7/27(土)シニア OB 会月例登山「谷川岳」に今年初参加しました。高低差 600m に自信あったのに、頂上目前で大腿部痛みで断念下山しました。スキー、テニスと運動続けてたのに登山は持久力だと改めて実感しました。高齢化で衰える自分の筋力に比べて、元気な仲間を見て改めてトレーニングの重要性再認識しました。

吉田輝義(1期) : いつもシニア OB 会の行事に参加しています。

宮崎紘(2期) : 茅ヶ岳の麓で甲斐駒を眺めながらのんびり暮らしています。

白井信行(3期) : シニア OB 会月例等でまた山を楽しんでいます。盛会を祈念します。

金田精彦(3期) : 既に定年後 3 年になりますが、未だ自由にはなっておりませんので、年 1 回のシニア参加が唯一のものとなっています。あと 2 年間はこの状態で、その後、晴れて自由になる積りです。

江崎伴雄(3期) : 週 3 日の嘱託勤務を続けながら、時々山歩き(YWV シニア OB 会の月例が中心)とテニスを楽しんでいます。

平林茂(3期) : 吉野大次郎先輩の「100 名山」踏破の記事に刺激されて、はずかしながら「日本秘湯を守る会」の温泉すべてに入浴することを目標にしました。145 湯の内まだ 15ヶ所しか入ってませんのではたしてどうか……。妻とがんばってみたいと思っています。

井上肇(3期) : ひよんなことで二足のわらじを履いています。その二足目のわらじで国内を動きまわっています。先日は近江八幡に行き安土城址に登りました。また高松では屋島を歩きました。しばらくはそんな史跡めぐりが続きそうです。

亀井昭子(5期) : 子供もそれぞれ世帯を持ち、ジジとノシバの生活になりましたので OB 会山行を楽しませていただいております。

谷合成人(5期) : 昨年末卒業以来始めて常盤台のキャンパスを訪ねました(ビジネスがらみで)我々のとき(清水丘)に比べうらやましい限りの環境でした。シニア OB 会に時々女房と一緒に参加していますが普段の土日はもっぱら地域のオジさんテニスで体を動かしています。

岡田光豊(6期) : 現役時代に会得したノーハウを活用して、仕事の合間をみては、山行を楽しんでいます。

菅谷光雄(6期) : 60 年生きてみると、「創部 50 年」が本能的にスバラシイと感じます。次の 50 年には何が起きるか楽しみですが、100 周年の時には今の OB 会員の殆どが三途の川を渡渉しているでしょう。せめて後輩の為に何かを残してやりたいものじゃ(但、私は 100 周年、出席予定)

小木曾克彦(7期) : 理学電機を 60 才で定年退職し会社を起業しました。特殊な X 線検査装置を製造販売しております。今は水素燃料電池関連です。

池原盛彦(8期) : 山行、山小屋、そして横浜自家の三面両立は大変ですね。

早坂宗(8期) : ポチポチ山登りを続けています。

綾部和子(8期) : 学校はこの 4 月から週 5 日制になりましたが、土曜日は PTA 等の会議が入りなかなか休めません。今までの土曜日 2 回休みより多忙になっています。数年前からせめて月 1 回は山歩きができたならと実行しようと心がけたのですが、とても無理で、もう少ししたら(停年まであと 3 年)楽しもうと思っています。

上島雄助(8期) : 九州の田舎に居り、皆々様とお目にかかることもままなりません、あとわずかで時間的ゆとりも出来るでしょうから、その時は是非本州の方へ出かけて行きたいと今から楽しみにしています。山小屋のメンテナンスも大変ですが、大切にして行きたいと思います。

溝田隆之(8期) : 週末は、左膝のリハビリと肥満防止を兼ねてプールでの水中ウォーキングに励み、ほかには不摂生な生活をなんとなく続けています。健康に良い森林浴やきれいな空気を堪能できる山歩きができる身体に再生できることを願っている今日この頃です。総会が成功理に行われることを期待しますとともに、出席者の皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。

三浦煌太郎(9期) : 年に数回家内又は友人とワンダリングを楽しんでいます。

日渡松男(9期) : 第 6 回の OB 山行に参加する予定です。今回は是非好天に恵まれることを願っています。

鈴木弥栄男(9期) : ご無沙汰しています。ポルトガル赴任、早や 3.5 年経過しました。年 2~3 回程一時帰国しますが、短期間で美しい自然を鑑賞と云う訳にはいきません。此方で欧州の素晴らしい歴史や文化を堪能して、日本の美しさや良さの代行にして楽しんでいます。ポルトガルから

山本陽一(10期) : 02 年 2 月より山口県徳山市に出張中です。

12月完了予定です。休日には山口県百名山及び近県の名山(九重連峰、三瓶山、石鎚山など)を登っております。2回ほどOB会の幹事会に出ましたが、その後は幽霊会員状態で申し訳ありません。

山川隆(12期)：日々忙しく中々山に行く時間がとれません。しかし、今年は秋のうちに一度山行を計画しています。山小屋の話を色々メールリストで受け取り、懐かしく拝見しています。

鈴木道夫(14期)：厳しい世の中で、いろいろ苦しいことも多いですが、YWVは良き財産として、己を支えてくれるもののひとつになっています。有難いなあ。

上野節子(14期)：このところ、体調不十分のためOB山行のお誘いも欠席させてもらっています。皆様によろしくお伝え下さい。

小泉啓治(15期)：OB会の仕事、本当にごくろうさまです。甘えてはいけないのでしょうか、何人かの方が支えてくださっているから、その恩恵をこうむっていると、有難く思っております。このままで良いのか?というお考えで、問題提起をされていることも知っておりますが、一人一人の立場を考えると・・・。ともあれ、心より感謝しております。ありがとうございます。

山下暁(17期)：R2002に参加してきました。卒業以来初めて山小屋に泊まりました。

葛窪真紀子(17期) この夏から、夫が黒姫高原で貸しロッジ(コテージ)を始めました。なえな小屋にお出かけの節は、ちょこっと寄ってみてください。「フォレストインシャーウッド」で検索してみてください。

岡田文子(18期)：今年は尾瀬に行きました。来年は富士山に行きたいとか、小6の娘がいるので家族中心の登山です。

浜田淳(18期)：平成13年夏から、松本市にある信州大学にて教官の仕事をしています。今夏には久しぶりに燕岳から常念岳を歩きました。

笛木久栄(19期)：7月初めて入院して、8月は家でゆっくりしていました。6月に尾瀬のインタープリテーション講座を受けたので、来年から尾瀬ボランティアの活動が広がりそうです。

林厚子(19期)：今夏久しぶりに山に登りました。甲斐駒、仙丈とこれまで雨で途中断念した山にやっと登れました。天候に恵まれたこともありお花の美しさ、大学3年の夏合宿で行った北岳～塩見まで見ることができ大満足でした。

石井啓介・忍(19期)：最近OBの活動が活発になってきたように見え、結構なことだと思います。ただし、我々の期に近い年代があまり積極的に参加していないように思われる点が残念です。OB会、小屋の活動などにも参加させてもらいたいのですが、遠方においてままならず、申し訳ありません。こちらからでもお手伝いできることありましたら、協力させてもらいます。

坂元朋子(21期)：長らくおたよりを頂くばかりで申し訳ありませんでした。ボランティア活動で超多忙な数年と闘病の日々を過ごし、一段落したところです。YWVの山行で出会った野山の草花のすばらしさを、私は一生忘れられないのだと思ひながら、仲間と一緒にハーブ園を作って自然とつき合っています。

吉田豊(23期)：子育て&仕事奮闘中。早くシニアになって、OB会に活発に参加できるようになりたいです。

丸山活輝(24期)：来年からマイカー規制とのことで、先日乗鞍岳に登ってきました。12年ぶりの3000m峰の登頂で感激しました。娘は2度と来たくないとのことでしたが、息子は満更でもない様で、これから山登りに洗脳しようと思っています。苗名小屋にも今後連れて行くつもりです。

永田武(25期)：2002年末に社名でタイの南部のスラタニという町で木質ボード製造工場を経営しております。現地との合弁工場従業員が約210人の規模です。ゴムの植林木をチップにして接着剤で熱圧成型したパーチクルボードという製品で、主に家具の芯材とか住宅建材に使用されています。残念ながら日本には殆ど輸出しておらず、タイ国内や香港・中国・台湾・ベトナム・フィリピンに出荷しています。プーケットまで車で2時間半、サムイ島までフェリーで2時間というリゾートにはもってこいの場所に位置しており、日本から友人が観光にきた際には車で案内したりしています。タイに遊びに来られる機会がありましたら是非ご連絡下さい。

井口次郎(28期)：マレーシアサバ州コタキナバルに赴任中。

小久保裕之(28期)：OB会幹事の皆様いつもありがとうございます。OB会の行事に参加していませんが、送ってくださっている会報、小屋関係のメール等をいつも読ませてもらっています。気持ちはいつも参加しているつもりですし、また、何かのタイミングで何かできるかなと思っています。この間のスカイラインには文章を投稿させていただきました。自分の文章を活字にさせていただいて、皆様に読んでいただけたことをうれしく思います。また、次回のスカイラインにも、チャンスがありましたら何か文章を書きたいと思っています。今、研修派遣で、国大の大学院教育学研究

科に在籍しています。来年度までいる予定です。禅さんと笠原さんにご飯を食べて話をしたりしてワンゲルの空気を少し味わったりしています。長くなりましたが、近況報告とさせていただきます。

安本健一(30期)：この12月に第3子が生まれる予定です。

富澤理子(35期)：今年の夏は双六・三侯蓮華をのんびりと歩いてきました。水場があれば必ず水を飲み、沢があればいちいち立ち止まり、持って来たものを冷やして食べるという調子なので全然前に進まない……。すっかり集団行動

に向かない体質になってしまいました。

渡邊隆史(36期)：愛媛に来て苗名小屋からは遠ざかってしまいましたが、地元の山の登山道整備やごみ拾い、頂上の茶屋のマキ割りなどのお手伝いをしています。

石川真(41期)：来年度からユシロ化学に就職する予定です。郡司さんが築いたYTCというハイキングのサークルに早くも誘われています。勤務地も寒川なので、小屋の行事などの参加には困らない場所です。しばらくは実働部隊として名を連ねることができると思います！

計報

11月21日(木)、9期の三浦正継氏が、肺ガンのため逝去されました。心よりご冥福をお祈り致します。

2003年度寄付明細

会計幹事

2003年度は特にお願いはしていませんでしたが、02年11月30日現在下記88名の方々から680,500円の寄付が寄せられました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

期	氏名	一般寄付	小屋寄付	共通寄付	計	期	氏名	一般寄付	小屋寄付	共通寄付	計
33	藤井謙一郎			88,000	88,000	4	横山 幸子			5,000	5,000
1	佐藤 文雄			50,000	50,000	5	亀井 良英		5,000		5,000
	匿名	40,000		40,000	40,000	5	亀井 昭子		5,000		5,000
21	横溝 真司		30,000	30,000	30,000	15	小泉 啓治			5,000	5,000
33	赤羽 直雄(父)		30,000	30,000	30,000	16	佐藤 善樹			5,000	5,000
14	小口 雄平		17,500	17,500	17,500	35	曾根 康博			5,000	5,000
1	嘉納 秀明	10,000		10,000	10,000	37	堀越 壮平		5,000		5,000
2	宮崎 紘			10,000	10,000	37	佐々 健太郎		5,000		5,000
3	井田 貞司			10,000	10,000	3	井上 肇			3,000	3,000
3	吉村 元孝	10,000		10,000	10,000	7	細田 隆	3,000			3,000
4	高田 良子			10,000	10,000	8	田中 稔	3,000			3,000
4	齋藤 貞夫			10,000	10,000	12	榎本 吉夫			3,000	3,000
5	向井 久弥	10,000		10,000	10,000	14	狩野 一子		3,000		3,000
6	原 隆			10,000	10,000	15	牛窪 肖			3,000	3,000
6	蜜島 英二		10,000	10,000	10,000	18	堀内 章子		3,000		3,000
6	菅谷 光雄			10,000	10,000	18	塩川 朋久			3,000	3,000
7	松本 弘道	5,000	5,000	10,000	10,000	19	林 厚子	3,000			3,000
8	松本真理子	5,000	5,000	10,000	10,000	22	寺島 一希			3,000	3,000
8	上島 雄助		10,000	10,000	10,000	22	寺島美佐緒			3,000	3,000
11	安藤 貞利		10,000	10,000	10,000	26	辰馬 克也		3,000		3,000
11	丹羽 守裕	5,000	5,000	10,000	10,000	28	中西 信之	3,000			3,000
12	山川 隆		10,000	10,000	10,000	30	下出 直孝			3,000	3,000
14	鶴飼 紀夫			10,000	10,000	30	竹澤 智			3,000	3,000
34	小野恵美子		10,000	10,000	10,000	34	田村 顕洋	3,000			3,000
2	北見美智子	8,000		8,000	8,000	22	立浪 和也			2,500	2,500
7	菅谷美智子	8,000		8,000	8,000	22	鴨志田岳志			2,500	2,500
11	桜井 謙一		8,000	8,000	8,000	24	鴨志田周子			2,500	2,500
14	鈴木 道夫		8,000	8,000	8,000	9	木下 三男			2,000	2,000
5	高須 梓		7,500	7,500	7,500	10	山本 陽一	2,000			2,000
1	望月 元雄			6,000	6,000	14	吉田 忠			2,000	2,000
2	吉野大次郎			6,000	6,000	17	北沢由実子		2,000		2,000
2	塚原伸一郎	6,000		6,000	6,000	21	藤倉 大介			2,000	2,000
3	渡辺 享英			6,000	6,000	24	大津 真嗣	2,000			2,000
4	郡司 直樹		6,000	6,000	6,000	29	禅 知明			2,000	2,000
21	坂元 朋子			6,000	6,000	30	笹倉 実		2,000		2,000
21	鳥井 正志			6,000	6,000	3	平林 茂	1,500			1,500
28	井口 次郎			6,000	6,000	29	福島 昌彦			1,500	1,500
35	吉田 啓史	3,000	3,000	6,000	6,000	4	谷上 俊三			1,000	1,000
1	藤岡 暉生			5,000	5,000	22	山崎 晃		1,000		1,000
2	米屋 勝利			5,000	5,000	24	八木 肇			1,000	1,000
2	多田 裕子			5,000	5,000	29	関 隆広	1,000			1,000
2	西村 郁代		5,000	5,000	5,000	34	親跡 冬樹			1,000	1,000
3	森井 栄子		5,000	5,000	5,000	37	伊藤 栄二			1,000	1,000
3	江崎 伴雄	5,000		5,000	5,000	39	後藤 誠史		1,000		1,000
	小計	115,000	185,000	259,000	559,000		小計	21,500	35,000	65,000	121,500
							計	136,500	220,000	324,000	680,500



朝焼けの妙高連峰

YWVOB 会報第 22 号

発行: 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

発行日: 平成 14 年 12 月 15 日

発行責任者: 嘉納 秀明(1)

編集責任者: 編集委員長 田村 顕洋(34) (Email: a-tamura@mbg.sphere.ne.jp / Tel. :090-8014-6877)

編集担当: 編集委員長 田村 顕洋(34)、編集副委員長 松本 弘道(7)、同 山崎 美穂(39)

写真提供: 谷上 俊三氏(4)、池原 盛彦氏(8)、笹倉 実氏(30)ほか

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

～原稿募集のお知らせ～

山行や同期会の話題、そのほか何でも結構ですので、会報に掲載する原稿を募集しています。

投稿やお問い合わせは、上記編集担当まで、お願いいたします。